

税金について私が思うこと

大阪府松原市立松原第五中学校三年四組

村井 悠月

ずっと以前、どこかの国の青年がテレビで言っていた。「僕は将来、是非税金を納めた。だってそうすることで税金の使い道に対して自分の意見を言うことができるからね。」この言葉がずっと心に引っかかっていた。私は買い物支払いのとき、思っていた金額よりも高いと感じることが時々ある。消費税8%が上乗せされるからだ。つまり、私にとって税金は出来れば払いたくないものだった。

作文を書くに当たって、税金について調べてみて分かったことがある。まずは、税金はこんなにも身近で様々なことに使われているということである。その多くのものが自分たちの暮らしにとって欠かせないものだった。中でも私たち中学生には年間で100万円近くの税金が使われていて、驚くとともに有難く思った。そして、さらに色々考えてみる。あの青年が言っていたように、もし自分も税金の使い道について意見を言えるとしたら、最近ニュースで、学校教育の無償化を今後進

めていくと聞いた。私はこれに賛成である。所得格差が教育格差を生んでいるというニュースを何度も見たことがある。これは家庭の収入によって大学進学率などに大きな格差が生まれるということらしい。成績が優秀なのに経済的理由で、学ぶ機会が失われるということはとても残念なことだ。調べてみると、放課後学習や塾代の助成などの対策を行っているところもあるようだ。だが、日本全国、どこに住んでいても受けられるようにならない

いだろうか。また、世界には大学までの授業料が全て無償の国が何カ国もあるようだ。本当に学ぶ意欲のある学生が何の心配もなく学ぶことができる制度があれば良いと思う。十分な教育を受けることは将来の仕事にもつながり、納税者を増やすことで税収も増える。それは、いま日本が抱える多額の負債の軽減に役立つかもしれない。よく言われることだが、日本の一番の資源は人間なので、教育を充実させることは日本にとって大切なこと

だと思う。ただ、使える税金は有限なので、効率の良い配分を考えなければならぬ。ここまで考えてきて、冒頭の青年の言葉が自分の心の中にすっと落ちてきた。そして、自分も税金をきちんと納め、その使い道に対してしっかりと考えていきたいと思った。そこで提案がある。国民の三大義務のなかに「納税の義務」がある。これを「納税の権利」と変えられないだろうか。「税金は取られるもの。だからなるべく取られたくない。」

ではなく、「自分には納税の権利がある。その権利を行使し、色々なことを学び考え、政治に積極的に参加していく。」と意識を変えていくということではできないだろうか。